

プログラム概要

●日程 2022年10月～12月 全9回

| 授業スケジュール | 日程・時間(予定) | 概要 |
|-----------|-----------------------|---|
| セッション1 | 10/21 (金) 14:00-18:00 | 【キックオフ】①開講式 ②基礎講義 ③EQ結果解説 ④チームビルディング |
| セッション2 | 10/27 (木) 19:00-21:30 | 【課題理解と発見】①課題を深めるミニ講義 ②チーム活動 ③全体のシェア |
| セッション3 | 11/4 (金) -5 (土) | 【群馬県上野村フィールドワーク】※詳細は別途連絡します |
| セッション4 | 11/17 (木) 19:00-21:30 | 【課題整理と解決策検討】①FWの成果共有 ②チーム活動 ③全体シェア |
| セッション5 | 11/24 (木) 19:00-21:30 | 【解決策検証】①現地事業者との対話 ②チーム活動 ③全体シェア |
| セッション6 | 12/1 (木) 19:00-21:30 | 【プレ発表】①プレ・プレゼンテーション ②意見交換 ③チーム活動 |
| セッション7 | 12/8 (木) 19:00-21:30 | 【検討と修正】①チーム進捗報告 ②チーム活動 ③全体シェア |
| セッション8 | 12/16 (金) 13:00-17:00 | 【成果報告会(上野村)】①チームによるプレゼンテーション②講評 ③感想シェア |
| ポストセッション9 | 12/22 (木) 19:00-21:00 | 【リフレクション】①「EQポスト受検」フィードバック②チームでのリフレクション |

・セッション1(立命館東京キャンパス)セッション3、8(上野村)は対面実施。
・その他の夜間セッション(1900-2130)は遠隔(ZOOM)実施。・各セッションの概要は、変更になる可能性があります。

●受講料

・1名につき188,000円(税込)
※交通費、宿泊費は各自別途負担となります。

●募集人数

・25名

●申込締切

1次締切日:9月9日(金)/2次締切日:10月3日(月)

●申し込み方法

別紙の「受講申込書」を利用してください。
メールまたはFAXにて、受講申込書をお送りください。
立命館東京キャンパス「チェンジ・メイカー育成プログラム」事務局 宛
メール【tokyo-kz@st.ritsumei.ac.jp】
FAX【03-5224-8189】
※受講申込書の項目をメール本文中にご記載の上お送り頂いても結構です。
※受講申込書を受信後、事務局から詳細についてご連絡いたします。

●ご参加頂きたい方

・次期ビジネスリーダー候補人材
・新規事業開発に取り組んでいる、あるいは取り組みたい方
・DXやSDGs事業に取り組んでいる、あるいは取り組みたい方
・自分自身や日常業務に変革を生み出したい方
・地域との繋がりがや新しい価値観を取り入れたい方 など

●問い合わせ先

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー8階
立命館東京キャンパス「チェンジ・メイカー育成プログラム」事務局
メール : tokyo-kz@st.ritsumei.ac.jp
TEL : 03-5224-8188 (月曜日～金曜日 9:00～17:30)



受講にあたってのQ&A

Q1 このプログラムで身につくスキルや能力は何ですか。

A 職場や社会で「チェンジ・メイカー」として活躍できる能力を育成します。
未知の課題に対して、深く考え抜く力、コミュニケーション力、具体的なアウトプット力など、これらは今の時代に必要な課題の本質を見極めるスキルでもあります。

Q2 このプログラムは単位となる大学の正課の授業ですか。

A 社会人リカレント教育の特別プログラムとして開講しますので、大学の単位認定外の課外プログラムです。但し、すべての課題等を提出された方には大学から「プログラム修了証」を発行します。

Q3 授業スケジュールにあるセッション以外での学習時間はどれくらいありますか。

A 個人での講義(オンデマンド)受講、リサーチ活動、グループでの打合せなど、学びの時間が必要です。いずれも日常の仕事に影響のない範囲で取り組んでいただけだと思います。

Q4 「PBL」で取り組むテーマは指定されるのでしょうか。

A 大きなフレームで社会課題となるテーマを事前に提示します。受講者はテーマを選択することができるようにする予定です。1つのテーマで4～5名でチームをつくります。

Q5 講座の内容や受講生の写真などはHPやSNS等に公開されますか。

A 個人情報については「学校法人立命館 個人情報保護基本方針」に基づき適正に管理します。受講風景などの写真は受講生の許可を得てHPやSNSで発信する予定です。

Q6 首都圏以外の遠隔地からの受講も可能ですか。

A セッション1(開講日)、セッション3(フィールドワーク)、セッション8(成果報告会)は対面での参加が必須です。その他のセッション(平日夜間)は遠隔地からのオンライン参加も可能です。

Q7 受講開始までに準備するものはありますか。

A カメラ付きPCとインターネット回線は各自でご準備ください。また、メッセージプラットフォームの「Slack」を使いますので慣れておくと安心です。必須のテキストや教材はありませんが、受講開始日までに必要な情報(参考文献や資料)を提示します。

Q8 EQ測定やキャリア面談には別途費用はかかりませんか。

A EQテストとキャリア面談の費用は受講料に含まれます。
なお、EQテストはWEB回答、キャリア面談は遠隔(ZOOM)で実施予定です。

Q9 プログラム途中でキャンセルした場合はどうなりますか。

A 受講開始後の途中キャンセルについては返金の対象とはなりません。プログラムの進行上何か不安な点などありましたら事務局にご相談ください。

Q10 ひとつの企業・団体から複数名の申し込みはできますか。

A はい。2名以上の受講も可能です。上限人数については事務局にお問合せください。

2022年度立命館東京・社会人リカレント講座 チェンジ・メイカー育成プログラム(4期)

自分を変え、 会社を変え、 社会を変える。

新しいリーダーを生み出す社会人PBL[※]と越境体験

挑戦を続ける「群馬県上野村」をフィールドに
地域循環型社会、サステイナブルな未来を展望し、
多様なチームで実践的な解決策を提案する3か月間の他流試合型プログラム

※PBL Project-Based Learning 課題解決型学習
受動的な学習ではなく、自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法

主催:立命館東京キャンパス
共催:ジャパンラーニング株式会社
協力:群馬県上野村、株式会社阪急交通社

立命館 東京 詳しくは 立命館 東京 で【検索】



チェンジ・メイカー育成プログラムとは 社会人を対象にした、社会課題解決型の研修プログラムです。

「チェンジ・メイカー」とは、課題の本質を見極め、
様々な分野の個人・組織の力を集めて試行錯誤を繰り返し、状況を変化させられることができる人

Step
01

課題を探る

事業者から提供される基礎資料、立命館教授によるレクチャー、現地フィールドワークなどを通して、自ら問いを設定し、課題の本質を検証していきます。

Step
02

チームで挑む

4～5名で1つのチームを作り、課題に取り組んでいきます。
取り組む課題の大きなフレームは、事前のアンケートから受講生の背景や意向に沿ってチーム作りを進めます。

Step
03

ゴールを目指す

チームで【課題設定→仮説を立てる→解決策検討→実現可能な提案づくり】をサイクルとして繰り返しながら精緻化をはかります。各チームにファシリテーターが付き、セッションの進行と受講生をサポートします。

Step
04

成果報告会と振り返り

各チームが取り組んだ提案内容はプレゼンテーションを行い、現地やプログラム関係者から評価とフィードバックを受けます。事業化に繋がる評価を受けた提案は、プログラム終了後も事務局が伴走サポートしていきます。



EQ 測定、リフレクション、キャリア面談を併用した振り返り

プログラム前後の EQ 測定と、セッション毎の対話型リフレクションで、プログラムを通して一人ひとりの行動変化と成果を可視化します。
希望者には、キャリアコンサルタントによる面談も実施します。

前回参加者の声 (2022年1～3月 / 長崎県雲仙市の観光・地域産業活性化)



H.Nさん (金融)

このプログラムでは、業界や立場の違うメンバーが集い、雲仙市における課題解決を実施しました。チーム毎での活動がベースですが、毎回のセッションを振り返るリフレクションの時間が設けられたり、他のチームとのディスカッションを行うなど、多様な価値観を享受しながら参加者同士の交流も図ることができました。

コロナ禍でリアルに会う機会は少なかったのは残念でしたが、このプログラムを通じて実務に活かせる経験をすることが出来ました。

K.Dさん (人材)

コロナ禍でほとんどがオンラインでの開催となり、最初は距離感や温度感が図りにくく戸惑いもありましたが、まさしく本プログラムで定義されている時代の変化に対応する力が求められていると感じ、前向きに取り組めました。

異業種の方々、異なる年齢層、その土地に住む方々など様々な出会いの中で合意形成し進めていく力を養うことができました。また、毎回の振り返りや EQ の変化などを定期的に図るため、自身の行動変化にも気が付けるなど、この時代の越境学習の醍醐味が詰まっているプログラムでした。



今回のフィールドは、村内循環型経済を掲げる群馬県上野村。

上野村は神流川源流(利根川水系)の村で面積の95%が森林です。

現在村は人口1100名。関東地方では島嶼部を除く内陸で最も人口の少ない村でありながら人口の20%がIターン、10%がUターンという全国有数の移住者が多い自治体です。移住者が多い理由は昭和40年代から村で働き、暮らし、子供を育てることを村全体で支援する仕組みを構築してきた事によるものです。また、上野村では住民との協力により村独自の循環型経済を作り、「自然との共生社会」の実現を図っています。

課題は、地域産業の中心である観光事業の推進や、地域資源を活かした新たな産業を生み出し、「稼ぐ力」を育てる事です。

「挑戦と自立の村」上野村が未来でも輝き続けるために、上野村は考え行動をしています。



上野村型循環経済

上野村型循環経済とは、村で出た未利用資源の有効活用によりゴミを出さず環境負荷低減の地域社会を実現する仕組みの事です。
事業用・家庭生ごみは、村堆肥センターで堆肥となり畑へ。椎茸栽培の菌床は収穫後、燃料として出荷。森林組合の製材で出る端材は木材の乾燥用燃料として利用。間伐材は木質ペレット工場へ集めペレット原料として利用し木質ペレット発電やボイラー燃料として再生可能エネルギーを活用。この様に森林資源に限らず、捨てられ放置されていた未利用資源を活用した低炭素社会の実現や環境負荷を減らす仕組みづくりを進めています。



3つのテーマ (課題)

- ①魅力あふれるむらづくり (サステナブル・ツーリズム)
- ②自立した循環型むらづくり (サステナブル・ビジネス)
- ③住み続けたいむらづくり (サステナブル・ライフ)



【上野村からのメッセージ】

黒澤 八郎 上野村 村長



今、未来を切り開く力が、より求められています。このプログラムは、そうした力の醸成につながるとともに、地域課題をテーマとしたセッションなどを通じて、私達にとっても、大きな気づきが得られるものと期待します。

瀧澤 延匡 (株)上野振興公社



自治体の地域課題を解決するためには地元住民や地元企業のみではなく、村外の方ともビジョンを共有しチームを組んでいく事が重要です。皆さんと一つのチームになって課題解決に挑戦したいと思います。

岩佐 純佳 (一社)上野村 産業情報センター



私が上野村へ移住した理由は、自然の中で暮らしたいという思いと、今の職場が自分の夢に近かったためです。また移住をしてからは、村の方との交流の中で見守っていただいていると感じることが、幸せだなと感じています。